

# 令和6年度

## 市立横手病院の方針書

組織名	市立横手病院
所属長名	事務局長 柿崎 正行

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

- ・患者さん中心に、安心・安全な医療の提供につとめます。
- ・地域の医療・保健に貢献します。
- ・健全な病院経営につとめます。

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- ・地域の急性期病院としての診療の質の確保と充実
- ・健全な病院経営
- ・働き方改革と職場環境改善 働きやすい職場づくり・離職者の削減
- ・地域の医療・保健への貢献

### 3. 今年度の『スローガン』

健全な病院経営のために事務局一丸となって取り組みます。

### 4. 今年度の方針

- ・健全な病院経営継続に向けた取り組みの強化 赤字幅の削減から解消へ
- ・職員の働き方改革、健康対策支援による職場環境の改善 働きやすい職場づくり・離職者の削減
- ・地域の医療・保健・介護との連携強化 地域包括ケアシステムへの積極的参画

### 5. 今年度の重点取組項目

	実現したい成果	健全な病院経営継続に向けた取り組みの強化
(1)	取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・診療報酬改定に伴う各種施設基準・加算の見直しと対応</li><li>・患者数、医療スタッフ数の動向に伴う今後の病床運営の検討</li><li>・支出経費内容について、経費削減となるような見直しの実施</li><li>・診療材料経費の標準化</li></ul>
(2)	実現したい成果	職員の働き方改革、健康対策支援による職場環境の改善
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・診療報酬改定に伴う給料ベースアップ分の確実な実行</li><li>・医師の更なるタスクシフティングの推進</li><li>・業務改善を進め、労働時間の適正化を図り、働きやすい職場環境を構築する</li><li>・各種休暇の取得の促進</li><li>・各種ハラスマント対策の実施、更なる相談しやすい環境の構築及び周知徹底</li></ul>
(3)	実現したい成果	地域の医療・保健・介護への貢献の推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の医療機関・介護施設・行政等との連携強化を図るとともに医療の質の向上に努め、地域の医療保健への貢献を図る</li><li>・市民を対象とした健康講座の開催</li><li>・新興感染症等に対する継続的対応</li></ul>

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

診療報酬改定への適切な対応、新たな施設基準・加算の取得、各種算定機会の増による単価増について、事務局及びコメディカル部門とベンチマークソフトによる分析結果を示しながら密接に協議を行った。また、看護職員の中途退職者増に伴う夜勤回数の増の抑制のため、入院患者数減の状況も鑑み、一部病棟の病床を部分休床とし、対象病棟の夜勤体制を縮小した。結果、夜勤回数については一定の軽減が見られたが夜間看護体制加算の取得が不可能となったため、入院収益の減少につながった。総務省による経営アドバイザー事業により本年は、以前コンサル委託していた業者からの計強化プラン実現のための協議を2回行った。地域の新興感染症受入病院として、県と措置協定を締結し、入院患者の受入れを行った。また、介護施設等への感染対策の研修を開催し、地域の感染対策向上に寄与した。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

職員の負担軽減のため一部病棟の部分休床を実施してきたが、看護職員の中途退職者増加に伴い、一部病棟全体を休床にし、看護師を再配置することで、夜勤回数の標準化を図るとともに夜間看護体制加算の再取得に取り組む。また、DPC効率性指数に影響の無い疾患の患者を地域包括医療病棟へ積極的に転棟を行うことにより、在院日数の調整を行う。ベンチマークソフトを活用した診療科・コメディカル部門別の今年度実績データをもとに科長以上の医師・各コメディカルとの情報共有・今後の収益確保について協議を行う。新型コロナ感染に伴い、開催中止としていた病院祭について、10/20にAo-naにて地域医療フォーラムとして、医師の講話・若手職員によるパネルディスカッションを市民向けイベントとして実施。また、引き続き、地域の新興感染症に対応する医療機関として貢献をする。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

入院患者数の減、看護体制の維持のため、R7年1月1日より、3A病棟の34床を休床とし、残りの15床を3B病棟の一部として編入する病棟再編を行った。これにより、看護師の夜間配置加算の再取得等を実施した。また、晚秋～冬期にかけ入院患者が増大し、病床稼働率(病床再編以前は目標75%、再編後は目標85%)も、85%前後で推移し、満床近くになる場合もあり、入院収益の増大につながった。また、DPC制度のもと基本、入院患者の在院日数の縮減に努めていたが、入院患者数の減の原因となるためDPC係数に影響の無い疾患患者については入院期間を可能な限り延長し、リハビリ・薬剤・栄養管理指導などの手厚い療養環境の提供を行った。また、ベンチマークソフトによる入院分析結果について、科長以上の医師・各コメディカルとの情報共有・収益増のための取り組みについて個別に協議を行った。感染拡大に伴い開催を中止していた病院祭については、横手駅前に新規オープンした施設Ao-naを会場に10/20に地域医療フォーラムとして、医師の講話・若手職員によるパネルディスカッションを市民向けイベントとして実施し、公表を得た。新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症対策として、引き続き地域の医療機関として対応を行った。来年度に向けて、更なる患者数の確保・診療材料等の経費縮減を目的とした取組、人件費高騰の折ではあるものの必要な職員の確保及び医療DXを活用した業務負担軽減等に総務省マネジメント事業及びコンサル等の助言を取り入れながら、実施していく。